

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人長井弘徳会		
事業所名	介護老人保健施設リバーヒル長井 【事業所番号：0651580003】		
介護サービスの種類	介護老人保健施設	定員数	120名
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	【製品名】 ComuoonmobiletypeWSG（ヘッドセットマイク、バウンダリーマイク×2、ハーフショットガンマイク×2） 【導入時期】 令和 6年 1月 31日 [導入台数] 2台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 ・ リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の課題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>難聴により、集団活動についていけない、入所時の説明を聞き取れているか不安がある、入所者同士の会話に入れないなど、情報保証やコミュニケーションが阻害されている利用者がいる。職員も大きな声を出すことへの心身面の負担、威圧的な印象を与えてしまうこと、プライバシーの保護の難しさ等を感じていた。難聴者は聞き誤りや聞き返しも多く、同じ内容を説明する場合でも健聴者に比べて時間を要することがある。</p> <p>今回導入予定の介護ロボット機器コミュニケーションは、聴覚機能が低下した利用者との音声コミュニケーションを補助し、活用場面に適した集音マイクを選択することで、高齢者や介護職員等の負担の軽減が期待される。</p> <p>集団レクリエーションや入所者間の会話の補助だけでなく、感染対策によるアクリル板越しや窓越しの面会などにも対応が可能で、入所者や家族、職員間等の信頼関係やQOLの向上が期待される。</p> <p>導入後の研修において難聴への具体的対応の1つとして本製品を紹介し、使用による入所者のQOL及び介護職員等への満足度調査を通じて、介護サービスの向上、介護職員の負担軽減及び業務効率化に努める。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 機器の使用方法や効果を職員が理解し、使用することができる。 ○2年目 難聴者へのコミュニケーションの使用が定着し、入所者にとって安心な生活環境を整える。 ○3年目 介護職員の身体的精神的な負担軽減、業務効率化を目指す。		

期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 難聴があっても入所者間の会話や集団活動等に参加することができる。介護職員等が「大きな声を出すこと」や「繰り返し言い直すこと」が減少し、介護負担の軽減及び利用者の精神的負担が軽減する。 ○2年目 コミュニケーションの使用が定着することで、入所者がより安心して過ごせる環境の提供につながる。 ○3年目 介護職員の介護負担の軽減及び業務効率化が期待できる。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	コミュニケーションを使用した利用者へのアンケートを通じて、満足度を確認する。 コミュニケーションを使用した介護職員等へのアンケートを通じて、介護負担感及び説明時間の短縮等を確認する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
交付申請前	問題点の洗い出し 高齢者の難聴に関する研修 （3/23、8/10実施済） 使用方法説明会（4/5実施済） 試験導入（4/5～5/29実施済） 介護職員等への意見聴取（5/12 実施済）		
1月31日	納品	678,398	
令和6年2月1日～ 令和6年2月29日	導入担当者の選定 操作マニュアル作成 使用方法の説明 導入によるケア方法の見直し		
令和6年4月1日～ 令和7年2月29日	効果検証の実施（1年目）		
令和7年3月1日～ 令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（1年目）		
令和7年4月1日～ 令和8年2月29日	効果検証の実施（2年目）		
令和8年3月1日～ 令和8年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（2年目）		
令和8年4月1日～ 令和9年2月29日	効果検証の実施（3年目）		
令和9年3月1日～ 令和9年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（3年目）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業
務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担
当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用
する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研
修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の
実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目ま
での取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 かたばみ会		
事業所名	特別養護老人ホームかたばみ荘 【事業所番号：0670800416】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	80名
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	【製品名】 対話支援機器 ComuoonSEtypeSE 1台 Comuoonmobile type HS 1台 【導入時期】 令和6年1月31日 【導入台数】 2台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	今回導入予定である「コミュニケーション」は、高齢により聴覚機能が低下した高齢者の方との音声コミュニケーションをアシストする非装着型コミュニケーション支援システムで、介護職員と利用者双方の負担を軽減することができる機器である。今年7月に、機器の代理店から開発者である先生をご紹介され、「ヒアリングフレイルセミナー」として当施設職員が受講したところ、職員の反響が大きく、その後、デモ機器を使用し、その効果を実感することができた。 これまで、難聴の利用者とのコミュニケーションをとる際、介護職員が大声や筆談などで対応しており、何度も繰り返し聞くことで時間がかかったり、大声により威圧感を与えてしまうことがあったが、導入することで、職員の業務量や利用者の精神的負担を軽減することが期待できる。また家族の面会場面に活用することで、家族の負担も軽減でき、快適な面会環境が実現できる。 導入後は、機器の適切使用や難聴に関して理解する研修を定期的に行い、機器の利用による利用者の心身の変化を観察し、サービスの向上と介護職員の負担の軽減にも努める。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 機器の取り扱い方法や、対象利用者の選定後に使用効果について、全職員が理解し、適切に活用ができる。 ○2年目 機器を使用することで、コミュニケーションの機会が増え、難聴が要因とされるヒアリングフレイルを早期に発見し、認知症の進行を予防する。 ○3年目 援助する介護職員の負担を減らし、業務の効率化を図る。		

期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 機器の適切な使用と対象者の選定により、介護職員の業務負担と利用者の精神的負担の軽減について、その効果を評価できる。 ○2年目 認知症と難聴の利用者に使用し意思疎通が円滑になることで、関わりが多くなり、認知症進行の予防と安心した環境で生活ができる。 ○3年目 介護職員が難聴のある利用者とのコミュニケーションの際に、言い直しや大声による負担を少なくし、業務時間を短縮することができ、必要なサービスを提供できる。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	機器を使用した場合は、介護記録等に使用状況を記録し、使用した場合としない場合の介護時間の比較を行う。また使用時の利用者の詳細な反応（うなずきや表情、返答の正確性など）も記録し、認知症による症状の軽減等を検証する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
令和5年11月6日 ～令和5年11月30日	業務状況分析・問題点の洗い出し 難聴及び認知症利用者の選定		
令和5年12月1日 ～令和5年12月29日	導入担当者・チーム体制整備 （導入・活用・効果検証の各担当者の選定）		
令和6年1月4日 ～令和6年1月31日	機器を使用する介護職員等へのヒヤリング		
令和6年2月1日 ～令和6年2月29日	機器の導入 機器使用方法及びマニュアルの整備と研修計画の立案		
令和6年3月1日 ～令和6年3月29日	導入による業務内容の見直し		
令和6年4月1日 ～令和7年2月28日	効果検証の実施（1年目）		
令和7年3月1日 ～令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（1年目）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 かたばみ会		
事業所名	多機能施設 かたばみ荘 【事業所番号：0690800123】		
介護サービスの種類	小規模多機能型居宅介護	登録定員	29名以下
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	[製品名] 対話支援機器 Comuoonmobile type HS 1台 [導入時期] 令和 6年 1月 31日 [導入台数] 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	今回導入予定である「コミュニケーション」は、高齢により聴覚機能が低下した高齢者の方との音声コミュニケーションをアシストする非装着型コミュニケーション支援システムで、介護職員と利用者双方の負担を軽減することができる機器である。今年7月に、機器の代理店から開発者である先生をご紹介され、「ヒアリングフレイルセミナー」として当施設職員が受講したところ、職員の反響が大きくなり、その後、デモ機器を使用し、その効果を実感することができた。 これまで、難聴の利用者とのコミュニケーションをとる際、介護職員が大声や筆談などで対応しており、何度も繰り返し聞くことで時間がかかったり、大声により威圧感を与えてしまうことがあったが、導入することで、職員の業務量や利用者の精神的負担を軽減することが期待できる。また当該機器は、利用者の自宅等に訪問する際に持ち出して使用できることから、訪問時の適切な情報伝達が可能となる。 導入後は、機器の適切使用や難聴に関して理解する研修を定期的の実施し、機器の利用による利用者の心身の変化を観察し、サービスの向上と介護職員の負担の軽減にも努める。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 機器の取り扱い方法や、対象利用者の選定後に使用効果について、全職員が理解し、適切に活用ができる。 ○2年目 機器を使用することで、コミュニケーションの機会が増え、難聴が要因とされるヒアリングフレイルを早期に発見し、認知症の進行を予防し、正確な情報伝達ができる。 ○3年目 援助する介護職員の負担を減らし、業務の効率化を図る。		

期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 機器の適切な使用と対象者の選定により、介護職員の業務負担と利用者の精神的負担の軽減について、その効果を評価できる。 ○2年目 認知症と難聴の利用者に使用し意思疎通が円滑になることで、関わりが多くなり、認知症進行の予防と安心した環境で生活ができる。 ○3年目 介護職員が難聴のある利用者とのコミュニケーションの際に、言い直しや大声による負担を少なくし、業務時間を短縮することができ、必要なサービスを提供できる。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	機器を使用した場合は、介護記録等に使用状況を記録し、使用した場合としない場合の介護時間の比較を行う。また使用時の利用者の詳細な反応（うなずきや表情、返答の正確性など）も記録し、認知症による症状の軽減等を検証する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
令和5年11月6日 ～令和5年11月30日	業務状況分析・問題点の洗い出し 難聴及び認知症利用者の選定		
令和5年12月1日 ～令和5年12月29日	導入担当者・チーム体制整備 （導入・活用・効果検証の各担当者の選定）		
令和6年1月4日 ～令和6年1月31日	機器を使用する介護職員等へのヒヤリング		
令和6年2月1日 ～令和6年2月29日	機器の導入 機器使用方法及びマニュアルの整備と研修計画の立案		
令和6年3月1日 ～令和6年3月29日	導入による業務内容の見直し		
令和6年4月1日 ～令和7年2月28日	効果検証の実施（1年目）		
令和7年3月1日 ～令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（1年目）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 かたばみ会		
事業所名	特定施設 かたばみの家 【事業所番号：0670801497】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護	定員数	50名
（介護ロボットの製品名） 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	【製品名】 対話支援機器 Comuoonmobile type HS 1台 【導入時期】 令和 6年 1月 31日 【導入台数】 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 ・ リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	今回導入予定である「コミュニケーション」は、高齢により聴覚機能が低下した高齢者の方との音声コミュニケーションをアシストする非装着型コミュニケーション支援システムで、介護職員と利用者双方の負担を軽減することができる機器である。今年7月に、機器の代理店から開発者である先生をご紹介され、「ヒアリングフレイルセミナー」として当施設職員が受講したところ、職員の反響が大きく、その後、デモ機器を使用し、その効果を実感することができた。 これまで、難聴の利用者とのコミュニケーションをとる際、介護職員が大声や筆談などで対応しており、何度も繰り返し聞くことで時間がかかったり、大声により威圧感を与えてしまうことがあったが、導入することで、職員の業務量や利用者の精神的負担を軽減することが期待できる。また家族の面会場面に活用することで、家族の負担も軽減でき、快適な面会環境が実現できる。 導入後は、機器の適切使用や難聴に関して理解する研修を定期的実施し、機器の利用による利用者の心身の変化を観察し、サービスの向上と介護職員の負担の軽減にも努める。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 機器の取り扱い方法や、対象利用者の選定後に使用効果について、全職員が理解し、適切に活用ができる。 ○2年目 機器を使用することで、コミュニケーションの機会が増え、難聴が要因とされるヒアリングフレイルを早期に発見し、認知症の進行を予防する。 ○3年目 援助する介護職員の負担を減らし、業務の効率化を図る。		

期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 機器の適切な使用と対象者の選定により、介護職員の業務負担と利用者の精神的負担の軽減について、その効果を評価できる。 ○2年目 認知症と難聴の利用者に使用し意思疎通が円滑になることで、関わりが多くなり、認知症進行の予防と安心した環境で生活ができる。 ○3年目 介護職員が難聴のある利用者とのコミュニケーションの際に、言い直しや大声による負担を少なくし、業務時間を短縮することができ、必要なサービスを提供できる。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	機器を使用した場合は、介護記録等に使用状況を記録し、使用した場合としない場合の介護時間の比較を行う。また使用時の利用者の詳細な反応（うなずきや表情、返答の正確性など）も記録し、認知症による症状の軽減等を検証する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年11月6日 ～令和5年11月30日	業務状況分析・問題点の洗い出し 難聴及び認知症利用者の選定		
令和5年12月1日 ～令和5年12月29日	導入担当者・チーム体制整備 （導入・活用・効果検証の各担当者の選定）		
令和6年1月4日 ～令和6年1月31日	機器を使用する介護職員等へのヒヤリング		
令和6年2月1日 ～令和6年2月29日	機器の導入 機器使用方法及びマニュアルの整備と研修計画の立案		
令和6年3月1日 ～令和6年3月29日	導入による業務内容の見直し		
令和6年4月1日 ～令和7年2月28日	効果検証の実施（1年目）		
令和7年3月1日 ～令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（1年目）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	有限会社 にんじん		
事業所名	居宅介護支援事業所 にんじん 【事業所番号：0671900140】		
介護サービスの種類	居宅介護支援	定員数	100名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	【製品名】 Comuoonmobile type ML×1、ワイヤレスマイクスタンド×1 ショットガンマイク×1 【導入時期】 令和 5年 11月 30日 【導入台数】1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	難聴により、ケアプラン作成時やモニタリングを行う上で、内容を聞き取れていないまま曖昧な返答や返答が難しい場合、ご家族が判断を促すことがあり、難聴により本人による意思決定が阻害されている可能性が高い利用者がある。 ケアマネージャーも大きな声を出すことへの心身面の負担、威圧的な印象を与えてしまうこと、尊敬の低下や自尊心へマイナス面での影響を感じていた。また現在も感染対策としてマスクを装着していることで、さらに難聴の利用者様との意思疎通が難しいと強く感じる。 高齢による難聴は、大きな声でも言葉が聞き取れない「感音性難聴」の可能性が高く、大きな声で対応しても聞き誤りや聞き返しも多く、同じ内容を説明する場合でも健聴者に比べて時間を要することがある。 今回導入予定の意思疎通支援介護ロボット「コミュニケーション」は、聴覚機能が低下した利用者との音声コミュニケーションを補助し、活用場面に適した集音マイクを選択することで、サービス利用者とケアマネージャーとの意思疎通における負担軽減が期待される。 難聴利用者への具体的な意思疎通支援対策の1つとして本製品を紹介し、導入後の研修や満足度調査を通じて、利用者のQOLの向上及び介護サービスの向上と負担軽減及び業務効率化に努める。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 機器の利用方法や有効性を職員が理解し、使用することができる。 ○2年目 難聴利用者へのコミュニケーションの使用が定着し、安心して意思疎通が可能となる環境を整える。 ○3年目 ケアマネージャーの難聴の利用者との意思疎通における身体的精神的負担軽減及び業務効率化を目指す。		

期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 難聴があっても利用者との意思疎通がスムーズになることで、利用者が望まれるケアプランの作成や、モニタリング時における意思疎通の困難感が大幅に減少し、ケアマネージャーが「大きな声を出すこと」や「繰り返し言い直すこと」が減少し、介護負担の軽減及び利用者の精神的負担が軽減する。また何度も言い直すことが減少することで業務効率の改善にもつながる。 ○2年目 コミュニケーションの使用が定着することで、ケアプランの作成や、モニタリング時における意思疎通の困難感が大幅に減少し、利用者が望まれるケアプランの実現につながる。 ○3年目 介護職員の意思疎通時の負担感の軽減及びコミュニケーションの質の向上と業務効率化の双方の改善が期待できる。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	コミュニケーションを導入後の難聴のある利用者における、介護時間の短縮、及び意思疎通時におけるケアマネージャーへの満足度調査アンケートにて実施し効果検証を実施する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
交付申請前	問題点の洗い出し 高齢者の難聴に関する研修（8/17実施済） 使用方法説明会（7/24実施済） 試験導入（7/24~7/31、8/17~22実施済） 職員等への意見聴取（8/22実施済）		
11月30日	納品	305,800	
令和5年12月1日～ 令和5年12月31日	操作マニュアル作成 使用方法の説明 導入によるケアプラン作成方法の見直し		
令和6年4月1日～ 令和7年2月29日	効果検証の実施（1年目）		
令和7年3月1日～ 令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（1年目）		

令和7年4月1日～ 令和8年2月29日	効果検証の実施（2年目）		
令和8年3月1日～ 令和8年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（2年目）		
令和8年4月1日～ 令和9年2月29日	効果検証の実施（3年目）		
令和9年3月1日～ 令和9年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（3年目）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 輝きの会		
事業所名	特別養護老人ホームいきいきの郷 【事業所番号：0670100767】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	100名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	〔製品名〕 comuoon mobile type WSG×1、comuoon mobile type HS×1 comuoon connect type WSG×1、comuoon connect type HS×1 〔導入時期〕 令和 5年 11月 30日 〔導入台数〕4台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有）	<p>高齢による難聴は大きな声でも言葉が聞き取れない「感音性難聴」の可能性が高いことや難聴が認知症のリスクとなることを「ヒアリングフレイル」を通して学ぶ。</p> <p>難聴の利用者への対応としては大きな声を出すことでしか対応出来ていないのが現状となるが、威圧的な印象による利用者の尊厳の低下や聞き誤りや聞き返しなどコミュニケーションエラーが多くなることで健聴者と比べて対応に時間を要する場合があり、職員の負荷が発生している。また、現在も感染対策としてマスク着用や面会時はパーティションがあることで、さらに利用者との意思疎通が難しいと感じる。</p> <p>今回導入予定の対話支援システム「コミュニケーション」は感音性難聴にアプローチ出来る医学的エビデンスを有する機器となり、以下の場面においてのコミュニケーションの質の改善と向上が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常対話（双方向の負担軽減） ・レクリエーション（集団活動時の雑音禍） ・リハビリ（作業効率・理解度向上） ・家族との面会や入居説明（情報保障）など <p>当該機器を使用し利用者のQOL向上や職員への満足度調査を実施し介護サービスの向上や負担軽減及び業務効率化を図る。難聴をテーマとした研修を行うことで職員の利用者へ対してのコミュニケーションの再認識に努める。利用者・職員だけでなく家族にとっても、より安心して過ごせる環境作りに努める。</p>		

機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後（翌年）1年目 機器の利用方法や有効性を職員が理解し、使用することができる。大きい声や耳元など過度に接近してのコミュニケーションの頻度を抑えることで、利用者や職員の感染リスクを低減する。</p> <p>○2年目 認知症の進行リスクとなる難聴を早期に発見し、機器を活用することでコミュニケーションの機会を増やし、活動性の低下を防ぐ。利用者にとって安心な生活環境を整える。</p> <p>○3年目 職員の難聴者との意思疎通による身体的・精神的負担を軽減し離職率の低下を目指す。</p>
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目 様々な場面での難聴の利用者とのスムーズな意思疎通が出来ることで、業務効率の改善に繋がる。また、職員の介護負担や利用者の尊厳の低下を防ぐ。マスク・パーティション・ガラス越しでも大きな声を出さずに対応が可能となり、利用者・職員・家族の感染対策になる。</p> <p>○2年目 難聴と認知症の利用者には積極的に機器を活用し、コミュニケーションを図り、レクリエーションなど集団活動の場への参加を促して活動性を維持する。難聴と認知症の症状は分かりづらいため、機器を活用し簡易的なスクリーニングを行い、利用者ごとに適した対応を行うことで安心な環境になる。</p> <p>○3年目 難聴の利用者との対応を効率的に行えることで、職員の身体的・精神的な負担を軽減する。また、介護時間を短縮することに繋がり、離職率や休職率の低下が期待出来る。</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<p>機器の使用状況の記録や職員へのアンケートを集計し、効果検証を実施する。利用者や家族にも機器の有無による、聴こえのヒアリングを行い、満足度調査を行う。</p> <p>上記データを基に導入前後の離職率・休職率を比較する。</p>

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
交付申請前	<p>問題点の洗い出し 使用方法説明会（8/8 実施済） 試験導入（8/8～8/25 実施済） 職員等への意見聴取（8/25 実施済）</p>		

11月30日	納品	1,037,390	
令和5年12月1日～ 令和5年12月31日	高齢者の難聴に関する研修 音声コミュニケーションに関する 実地研修 操作マニュアル作成 使用方法の説明 導入によるケア方法の見直し		
令和6年4月1日～ 令和7年2月29日	効果検証の実施（1年目）		
令和7年3月1日～ 令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（1年目）		
令和7年4月1日～ 令和8年2月29日	効果検証の実施（2年目）		
令和8年3月1日～ 令和8年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（2年目）		
令和8年4月1日～ 令和9年2月29日	効果検証の実施（3年目）		
令和9年3月1日～ 令和9年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（3年目）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会医療法人みゆき会		
事業所名	介護老人保健施設紅寿の里 【事業所番号：0652380023】		
介護サービスの種類	介護老人保健施設	定員数	100名
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	[製品名] comuoonSE type SG comuoonmobile type SG [導入時期] 令和5年12月1日 [導入台数] 2台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 ・ リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	今回導入予定の介護ロボットは、話し手と聴き手の双方に大声で会話をするストレスの軽減をはじめ、円滑なコミュニケーションを可能にするための対話支援システムである。 聴覚機能が低下した利用者へレクリエーションやりハビリをする際に円滑なコミュニケーションが図れることが期待でき、同時に双方の負担を軽減することができる。 2台導入にあたっては、フロアにてレクリエーションやりハビリ時に使用するため、その他、利用者と職員の1対1の場面での信頼関係を築く際の使用等を目的にそれぞれ使用タイプの異なる機器を導入したい。 導入後は、聴覚についての勉強会を開催し、当該ロボットが与える影響を検証し、より有効的に使用するべく取り組んでいきたい。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 当該機器の使用法、使用環境等を把握し、全職員が使用することができるようになる。 ○2年目 当該機器を使用していく中で、より有効的な使用法や使用環境を検証し、利用者にとって安心できる生活環境を整える。 ○3年目 介護職員の身体的・精神的負担を軽減することで、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 感染対策としてパーティション等障害物越しでの会話や、一定の距離を保ちつつ会話をする事ができる。 ○2年目 会話をする事で、コミュニケーションの機会が増え、利用者にとっても脳の活性化等認知症予防につながる。 ○3年目 介護職員の声による会話や意思疎通にかかる時間短縮を図るこ		

	とで、介護職員の精神的ストレスの緩和など介護負担軽減につながる（離職防止等）。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	機器の使用状況を記録し、使用している時としていない時の介護時間の比較を行う。 面会時の使用実績及び使用者の感想を記録する。 使用した際の利用者の反応（表情や会話の内容等）を記録する。 介護職員の満足度を調査・記録する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
令和5年9月1日 ～令和5年10月31日	業務の状況分析(使用場面等) 難聴の利用者等、使用者の選定		
令和5年11月1日 ～令和5年11月30日	機器担当者の選定(委員会等立上検討) 活用法、効果検証各役割決定		
令和5年12月1日 ～令和5年12月31日	機器の使用法等、使用についての知識習得(使用者意見聴取)		
令和6年1月1日 ～令和6年1月31日	研修計画及びマニュアル整備		
令和6年2月1日 ～令和6年12月31日	効果検証の実施(1年目)		
令和7年1月1日 ～令和7年1月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(1年目)		
令和7年2月1日 ～令和7年12月31日	効果検証の実施(2年目)		

令和8年1月1日 ～令和8年1月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(2年目)		
令和8年2月1日 ～令和8年12月31日	効果検証の実施(3年目)		
令和9年1月1日 ～令和9年1月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(3年目)		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 輝きの会		
事業所名	特別養護老人ホームいきいきの郷 【事業所番号：0670100767】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	100名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] comuoon mobile type WSG×1、comuoon mobile type HS×1 comuoon connect type WSG×1、comuoon connect type HS×1 [導入時期] 令和 5年 11月 30日 [導入台数]4台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>高齢による難聴は大きな声でも言葉が聞き取れない「感音性難聴」の可能性が高いことや難聴が認知症のリスクとなることを「ヒアリングフレイル」を通して学ぶ。</p> <p>難聴の利用者への対応としては大きな声を出すことでしか対応出来ていないのが現状となるが、威圧的な印象による利用者の尊厳の低下や聞き誤りや聞き返しなどコミュニケーションエラーが多くなることで健聴者と比べて対応に時間を要する場合があります、職員の負荷が発生している。また、現在も感染対策としてマスク着用や面会時はパーティションがあることで、さらに利用者との意思疎通が難しいと感じる。</p> <p>今回導入予定の対話支援システム「コミュニケーション」は感音性難聴にアプローチ出来る医学的エビデンスを有する機器となり、以下の場面においてのコミュニケーションの質の改善と向上が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常対話（双方向の負担軽減） ・レクリエーション（集団活動時の雑音禍） ・リハビリ（作業効率・理解度向上） ・家族との面会や入居説明（情報保障）など <p>当該機器を使用し利用者のQOL向上や職員への満足度調査を実施し介護サービスの向上や負担軽減及び業務効率化を図る。難聴をテーマとした研修を行うことで職員の利用者へ対してのコミュニケーションの再認識に努める。利用者・職員だけでなく家族にとっても、より安心して過ごせる環境作りに努める。</p>		

機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <p>機器の利用方法や有効性を職員が理解し、使用することができる。大きい声や耳元など過度に接近してのコミュニケーションの頻度を抑えることで、利用者や職員の感染リスクを低減する。</p> <p>○2年目</p> <p>認知症の進行リスクとなる難聴を早期に発見し、機器を活用することでコミュニケーションの機会を増やし、活動性の低下を防ぐ。利用者にとって安心な生活環境を整える。</p> <p>○3年目</p> <p>職員の難聴者との意思疎通による身体的・精神的負担を軽減し離職率の低下を目指す。</p>
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <p>様々な場面での難聴の利用者とのスムーズな意思疎通が出来ることで、業務効率の改善に繋がる。また、職員の介護負担や利用者の尊厳の低下を防ぐ。マスク・パーティション・ガラス越しでも大きな声を出さずに対応が可能となり、利用者・職員・家族の感染対策になる。</p> <p>○2年目</p> <p>難聴と認知症の利用者には積極的に機器を活用し、コミュニケーションを図り、レクリエーションなど集団活動の場への参加を促して活動性を維持する。難聴と認知症の症状は分かりづらいため、機器を活用し簡易的なスクリーニングを行い、利用者ごとに適した対応を行うことで安心な環境になる。</p> <p>○3年目</p> <p>難聴の利用者との対応を効率的に行えることで、職員の身体的・精神的負担を軽減する。また、介護時間を短縮することに繋がり、離職率や休職率の低下が期待出来る。</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<p>機器の使用状況の記録や職員へのアンケートを集計し、効果検証を実施する。利用者や家族にも機器の有無による、聴こえのヒアリングを行い、満足度調査を行う。</p> <p>上記データを基に導入前後の離職率・休職率を比較する。</p>

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
交付申請前	問題点の洗い出し 使用方法説明会（8/8 実施済） 試験導入（8/8～8/25 実施済） 職員等への意見聴取（8/25 実施済）		

11月30日	納品	1,037,390	
令和5年12月1日～ 令和5年12月31日	高齢者の難聴に関する研修 音声コミュニケーションに関する 実地研修 操作マニュアル作成 使用方法の説明 導入によるケア方法の見直し		
令和6年4月1日～ 令和7年2月29日	効果検証の実施（1年目）		
令和7年3月1日～ 令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（1年目）		
令和7年4月1日～ 令和8年2月29日	効果検証の実施（2年目）		
令和8年3月1日～ 令和8年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（2年目）		
令和8年4月1日～ 令和9年2月29日	効果検証の実施（3年目）		
令和9年3月1日～ 令和9年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改 善の取組検討（3年目）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）